

幼稚園および保育所における自然遊びの実態と課題（Ⅰ）

——在学生へのアンケート調査から——

杉山 浩之*・高橋 泰道*・大屋 咲穂**・江村 悠菜**

Actual Situations and Tasks of Nature-Activities in Kindergartens and Nurseries (I):
From the Questionnaires to Hiroshima Bunkyo Women's University Students

Hiroyuki SUGIYAMA*, Taidoh TAKAHASHI*, Sakiho OYA** and Yuna EMURA**

1 研究の目的

近年、子どもの自然体験が減少するなか、心身の発達のうえで様々な影響があることが指摘されている。そうしたなか森のようちえんが注目されたり、自然保育認証制度が鳥取、長野に次いで広島県で条例化されたりするなど、自然体験活動の重要性が評価されてきている。

国際レベルにおいても、ESDの必要性が指摘され、2017年改正の「幼稚園教育要領」（文献3）において、「持続可能な社会づくりの創り手」を育てることが明記された。

これからは、幼稚園や保育所において、「持続可能性（Sustainability）を視野に入れた環境教育」を目指した自然体験活動の活発化が求められていると言える。

そこで本研究では、在学生が実習で観察した幼稚園（中学4年生、2017年5月末から6月後半の期間）および保育所（中学3年生、2017年8～9月）における自然遊びの実態および課題を明らかにすることを目的とする。

自然遊びの実態は、（1）園の環境、（2）自然遊びの場所、（3）自然遊びの程度、（4）不十分

な理由、（5）自然遊びの種類、等に関して把握する計画である。

これらの実態の把握により、幼稚園および保育所における自然遊びの課題について明らかにしたい。

さらに、アンケートでは学生の自然遊びに関する教育観や学生自身の自然遊びに関する知識技能の自己評価などについても調査し、保育者養成についても考えてみたい。

2 アンケートの結果¹⁾

（1）「園の周囲の環境」（複数回答あり）

（幼稚園）

	自然	住宅	商業	不明	計
公立	7	2	1	0	10
(%)	70.0	20.0	10.0	0.0	100.0
私立	11	17	1	1	29
(%)	36.7	56.7	3.3	3.3	100.0

公立幼稚園は、自然の中の環境にある園が多いことが分かる。一方、私立幼稚園は、住宅地にある園が半数以上であるということが分かる。公立、私立で、園のある環境が大きく異なっていることが読み取れる。

保育所の環境は公立、私立ともに6割以上が

* 本学教授

** 本学初等教育学科35期生（3年生）

(保育所)

	自然	住宅	商業	不明	計
公立	12	19	0	0	31
(%)	38.7	61.3	0.0	0.0	100.0
私立	2	7	2	0	11
(%)	18.2	63.6	18.2	0.0	100.0

住宅地や商業地にあるということが分かった。その中でも、公立約4割、私立約2割と、公立のほうが自然のある場所に多いことが読み取れる。およそ2倍の差が見られる。

(2)「自然遊びの場所」(複数回答あり)

幼稚園は公立、私立ともに自然遊びを行う場所の多くは園庭であるということがわかる。また、園庭以外の場所では自然遊びがほとんど行われていないということがわかる。

幼稚園での結果と同様に、保育所では公立、私立ともに自然遊びを行う場所は園庭であるということが分かる。保育所では公立、私立どちらもおよそ8割と割合が高いことが分かるが、幼稚園の結果以上に公立、私立ともに自然遊びを行う場所の多くは園庭であるということ、園庭以外の場所ではほとんど行われていないことが分かる。

(幼稚園)

	園庭	公園	田畑	川	
公立	10	2	0	0	
(%)	66.7	13.3	0.0	0.0	
私立	22	4	2	1	
(%)	64.7	11.8	5.9	2.9	
	池	森林	山	その他	計
公立	0	0	3	0	15
(%)	0.0	0.0	20.0	0.0	100.0
私立	1	0	1	3	34
(%)	2.9	0.0	2.9	8.8	100.0

(保育所)

	園庭	公園	田畑	川	
公立	25	2	2	1	
(%)	80.6	6.5	6.5	3.2	
私立	12	1	0	1	
(%)	80.0	6.7	0.0	6.7	
	池	森林	山	ソノタ	計
公立	0	1	0	0	31
(%)	0.0	3.2	0.0	0.0	100.0
私立	0	0	0	1	15
(%)	0.0	0.0	0.0	6.7	100.0

その他：寺の庭、近くのビル(ツバメ)、動物園→(幼)

(3)「自然遊びが十分あったか」

(幼稚園)

	十分	不十分	分からない	計
公立	8	1	1	10
(%)	80.0	10.0	10.0	100.0
私立	10	5	4	19
(%)	52.6	26.3	21.1	100.0

公立幼稚園では8割以上が「十分に行っていた」と答えていた。これは、園の周囲の環境が関係していると考えられる。問1より公立幼稚園は自然の多い環境にあるという回答が多く、自然遊びも十分に行いやすい環境であったのではないかと考える。一方、私立幼稚園は半分以上が「十分に行っていた」と回答している割合も高いということが分かる。

(保育所)

	十分	不十分	分からない	計
公立	16	7	3	26
(%)	61.5	26.9	11.5	100.0
私立	5	5	2	12
(%)	41.7	41.7	16.6	100.0

公立保育所では「十分に行っていた」と回答している割合が約6割に対し、「不十分」と回答している割合（約3割）ではおよそ2倍の違いが見られる。一方、私立保育所では「十分」と「不十分」と答えた割合が約4割で同じとなった。「分からない」と答えた人の割合も含めると、「不十分、分からない」という割合のほうが高くなる。

（4）自然遊びが不十分とした理由

（幼稚園）				
	園庭	園外	時間	
公立	1	0	0	
(%)	100.0	0.0	0.0	
私立	3	3	3	
(%)	30.0	30.0	30.0	
	天候	室内	他	計
公立	0	0	0	1
(%)	0.0	0.0	0.0	100.0
私立	0	1	0	10
(%)	0.0	10.0	0.0	100.0

自然遊びが不十分とした理由として、「園庭の環境不足、園外の環境不足、時間不足、天候上不向き、室内遊びを好んでいた」などの項目に当てはまるか回答してもらった。

私立幼稚園は園庭・園外の中に自然遊びをする環境が不足しているということが分かる。実際、問1からも自然のある環境よりも住宅地や商業地にある園が多いためこのような結果につながったと考える。また、時間の面で保育所等に比べ幼稚園は子どもが園で過す時間が少なく、私立の園の特色ある活動の時間があるため、自然遊びを行う時間が不足しているのではないかと考える。

保育所の結果からは、自然遊びが不十分とし

（保育所）

	園庭	園外	時間	
公立	2	0	1	
(%)	22.2	0.0	11.1	
私立	1	1	0	
(%)	16.7	16.7	0.0	
	天候	室内	他	計
公立	4	0	2	9
(%)	44.4	0.0	22.2	100.0
私立	3	0	1	6
(%)	50.0	0.0	16.7	100.0

た理由として、天候という理由が公立、私立保育所ともに高いことが分かる。これは、実習期間が夏（8月から9月ごろ）で暑い時期であったために外での遊び時間が減ったことが理由として考えられる。

（5）遊びの種類

遊びの種類は、①土遊び（料理屋さん、街づくり、泥団子づくり、泥遊びなど）、②水遊び（色水作り、シャボン玉、水鉄砲、プールでの遊びなど）、③植物遊び（草相撲、草笛、押し花、葉っぱ船、首飾り、色水、野菜スタンプなど）、④動物遊び（虫取り、飼育など）、⑤木遊び（木登り、竹細工、木の実拾いなど）、⑥石遊び（ストーンアート、石並べ、音遊びなど）である。これらの遊びについて調査結果は以下の通りである。

（幼稚園）

	公立	私立
① 土遊び	80.0%	100.0%
② 水遊び	100.0%	63.0%
③ 植物遊び	100.0%	81.5%
④ 動物遊び	100.0%	81.5%
⑤ 木遊び	60.0%	29.6%
⑥ 石遊び	10.0%	18.5%

土、水、植物、動物あそびは公立、私立の幼稚園のともに多くの園で行われていることが分かる。また、木、石遊びは幼稚園、保育所ともに低く、特に石遊びは行っている園が少ないということが分かります。石を扱うことは危険が伴うということからである予想される。

次に、①～⑥の遊びの中で何が多いのか、その割合を見ると、公立も私立も同じような傾向が見られた。

(幼稚園)	公立	私立
⑦ 土遊び	34.2%	40.9%
⑧ 水遊び	9.9%	10.2%
⑨ 植物遊び	27.0%	21.3%
⑩ 動物遊び	20.7%	18.2%
⑪ 木遊び	7.2%	7.1%
⑫ 石遊び	0.9%	2.2%

保育所に関しても同様に見ると以下の通りである。

(保育所)	公立	私立
⑬ 土遊び	88.9%	64.7%
⑭ 水遊び	74.1%	58.8%
⑮ 植物遊び	63.0%	0.0%
⑯ 動物遊び	88.9%	52.9%
⑰ 木遊び	40.7%	22.1%
⑱ 石遊び	25.9%	5.9%

さらに、遊びの種類ごとに、どんな遊びが多かったかを調べてみると

⑦ 土遊び	28.5%	45.5%
⑧ 水遊び	20.7%	27.3%
⑨ 植物遊び	19.1%	0.0%
⑩ 動物遊び	20.3%	22.1%
⑪ 木遊び	7.7%	2.6%
⑫ 石遊び	3.7%	2.6%

幼稚園、保育所さらに公立、私立ともに土遊びが最も多く行われているということが分かる。反対に、石遊びに加え木遊びは幼稚園、保育所ともに割合が低くなっており、これは園庭に樹木が少ないことや、園外の自然環境が影響していると予想される。

(6) 学生の自然遊びの教育観と専門知識技能の自己評価

①「自然遊びをするときに大切にしたいこと」では、「五感の豊かさ」と「好奇心や探究心を育てる」が最も多く、次いで「季節の変化への関心」「生命の尊さ」「自然の不思議さ」「自然への愛情」が多いことが分かる。

②「自然遊びについての知識技能」の自己評価では、「たくさんある」と回答した学生は皆無であった。「まあまあある」(3年:15人33.3%、

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	全体
3年	28 62.2	2 4.4	12 26.7	26 57.8	16 35.6	1 2.2	3 6.7	21 46.7	15 33.3	45人 100.0%
4年	21 56.8	3 8.1	14 37.8	21 56.8	18 48.6	0 0.0	7 18.9	14 37.5	13 35.1	37人 100.0%
計	49 59.8	5 6.1	26 31.7	47 57.3	34 41.5	1 1.2	10 12.2	35 42.7	28 34.1	82人 100.0%

1 五感の豊かさ 2 心の癒し 3 自然への愛情 4 好奇心や探究心を育てる 5 生命の尊さ 6 数量や図形への関心 7 物の性質の理解 8 季節の変化への関心 9 自然の不思議さに気づく

4年：14人37.8%）、「あまりない」（3年：26人57.8%、4年：21人56.8%）である。

3～4割程度の学生はある程度の自己肯定意識があるが、学年による違いはほとんどない。

③「自然遊びの知識技能をどこで身に付けたか」では、「大学に入る前」（3年：36人80%、4年：25人67.6%、計61人74.4%）、「大学の授業で」（3年：23人51.1%、4年：20人54.1%、計43人52.4%）、「野外活動ボランティアで」（3年：12人26.7%、4年：4人10.8%、計16人19.5%）、④「自分で」（3年：0人0%、4年：3人8.1%、計3人3.7%）である。

7割以上の学生が「大学に入る前」が基も多いと回答しており、次いで5割程度が「大学での学び」である。「野外活動ボランティア」は2割前後である。

専門知識や技能の自己評価が相対的に低いことから、保育内容演習（3年前期）や「環境」（3年後期）におけるシラバス改善や授業の工夫が必要である。現状としては、自然遊びを全員が担当して模擬授業を行っているが、グループによる教材研究・指導案作成・遊びの援助であること、自然遊びに関する知識技能のミニマムエッセンシャルズを作成していないことが課題として上げられる。前者については、一人で教材研究をまず行い、後にグループで一つ選択して模擬授業を行う形式が考えられる。

また、野外保育のボランティアはチャンスが少ないが、アンテナを張り、より多くのボランティア情報を提供できるようにしたい。

考 察

以上の結果から、自然遊びの実態については次の5つのことが判明した。

1つ目は、井上・無藤（文献1、2006）の調査と同様に、公立幼稚園が最も自然環境の豊か

な場所にあるということ。

2つ目は、大澤（文献2、2011）の調査と同様に私立幼稚園が多様な環境で自然遊びをしているということ。

3つ目は、自然遊びの程度は私立保育所で不十分な割合が高いということ。

4つ目は、自然遊びが不十分な理由として私立幼稚園は様々な要因があるということ、保育所はアンケートの対象となった期間が8月から9月であり天候が要因となったということ。

5つ目は、自然遊びの種類は私立幼稚園と公立保育所では「木・石」の遊びが少なく、私立保育所では「植物・木・石」の遊びが少ないということ。どの園でも「土」遊びが最も多く、次に多いものは幼稚園では「植物」遊び、保育所では「水」遊びということ。

これらの結果は園の自然環境が大きく影響を与えているだろうと考えられる。これらの結果から園における自然遊びの課題が以下のように考えられる。すなわち、「幼稚園施設整備指針」（文献4）によると、自然体験を豊かにする森や樹木、池、自然の傾斜などの工夫や野鳥や昆虫の生態などを観察できるように緑化スペースを計画することが望ましいとされており、これを参考に住宅街に多い私立幼稚園は、園庭の改善が必要になるということである。保育所も含め、森や樹木は夏でも日陰を作るので園庭の自然環境を整えることに繋がると考える。これによって、木や植物を活用した遊びの種類も増えてくだろうと予想される。さらに、同指針には「環境との共生」について「環境負荷の低減や自然との共生等を考慮した施設作りを行うことが重要である」とあり、続けて「太陽光や太陽熱、風力、バイオマスなど再生可能エネルギーの導入、緑化、木材の利用等については、環境負荷を低減するだけでなく、環境教育を踏まええた

活用や地域の先導的役割を果たすという観点からも望ましい」と指摘されている。

おわりに

「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」の(7)では、「自然への愛情や畏敬の念」を持つこと「生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え命あるものとしていたわり、大切な気持ちをもって関わるようになる」とある。こうした育ちのためには豊かな自然体験活動が必要である。それによって幼稚園教育要領にある「これからの幼稚園教育では持続可能な社会の作り手となるための基礎を培う」ということが実現していくのではないだろうか。

鳥取県や長野県に次いで、広島県においても2017年10月から「自然保育認証制度」(文献7)が始まり、自然遊びの重要性が幼稚園、保育所ともに認識されていくと予想される。今回の研究を発展させ、自然遊びや園の環境のあり方に

ついてさらに考えていきたい。

注

- 1) 幼稚園調査の回答者は初等教育学科4年生(34期生)である。回収率は、69.8%(53人中37人回答)であった。保育所の回答者は、初等教育・人間福祉学科3年生(35期生)である。回収率は、54.9%(82人中45人回答)であった。

参考文献

- 1 井上美智子・無藤 隆(2006)、「幼稚園・保育所の園庭の自然環境の実態」、『乳幼児教育学研究』、第15号、pp. 1-11。
- 2 大澤 力(2011)、『幼児の環境教育論』、文化書房博文社。
- 3 文部科学省、「幼稚園教育要領」、2017年。
- 4 文部科学省、「幼稚園施設整備指針」(改訂)2016年、p. 5。
- 5 環境基本法、2014年。
- 6 環境教育等による環境保全の取組みの促進に関する法律、2011年。
- 7 鳥取・長野・広島県の自然保育認証制度については、各県のHPより閲覧が可能である。